

学生研修報告

米国ポートランド州立大学 夏季オンラインプログラム

昭和大学は国際的な視野を持った医療人を育てるため、国際交流プログラム・短期海外研修の企画・実施に力を入れており、毎年世界各国の大学や医療施設に学生を送り出している。

ポートランド州立大学(以下、PSU)とのサマープログラムは2006年に立ち上げ、「昭和大学の学生のためにデザインされたプログラム」を導入している。

今年度はコロナ禍のためオンラインでの英会話と医療英語クラス、PSU及び近隣の医療系総合大学の学生との交流、ホームレスシェルターを事例としたSDGsへの取り組みについて学ぶプログラムを提供し、各学部と看護専門学校から10名の学生が参加した。

椎葉 未怜(医学部1年)

私がプログラムに参加した理由は、元々留学に興味があり、現地に行けなくともオンライン上で現地の方々と交流することに意義を感じたからです。

プログラム中は誰でも自由に発言できる雰囲気であり、取り敢えず何か言ってみようという姿勢で参加できました。医療についてやSDGs、貧困などについても学びました。しかし、相手

が言っていることは理解できても、自分の考えをどのように表現すればよいかすぐには思いつきませんでした。言った後に今の英語は少しおかしいな、と感じることも多く、授業の勉強と実際に使える英語能力は全く異なるというのを痛感しました。現地の方の話を聞いた際に特に感じたのは、先生方は生徒が分かりやすい表現で教えてくださっていた、という事です。表現



も多様でスピードも速い現地の英語を習得するには、実際に話す、聞く、といった練習が必要だと感じました。最終日に私はペアの子と休日にポートランドを観光するという設定で発表を行いました。ポートランドは雰囲気良く、お店が沢山ある魅力的な街です。今回学んだことを、いつか実際に自分の目で見て体験したいと強く感じました。短い期間でしたが、参加して心から良かったと思っています。

私は英語が苦手な人です。英語のクラスも一番下です。しかし、海外旅行や外国人と話すのは好きで、一人で海外旅行に行っても楽しめるくらいに英語ができるようになっていきたいと思います。このプログラムは外国人の先生による授業やポートランドの大学生と話す機会があり、英語力を向上できると思ったので参加しました。

授業ではポートランドの有名な場所やSDGs、実践で役立つような医療英語も自己紹介から学び、最後にはSDGsについて英語で発表しました。授業中に自分

の意見を聞かれることがあり、慣れていないうえ、英語で言わなければならないのがとても大変でした。また、先生の授業は聞き取れても大学生が普通に話していることは聞き取れず、まだまだだなあと感じました。この研修を通して、英語を聞き取る力と話す力が身につきました。また、少しですが自分の意見を英語で言うことにも慣れてきました。さらに、医療英語を学んだので、外国人の患者さんにも対応できるようになりました。今後は先生が教えてくれたおす



手島 望(歯学部3年)

今回のプログラムには、英語力を上げたいという気持ちと、コロナの影響によりできることが制限されている中でも、夏休みという長期休暇に何か自分の成長につながる思い出になることをしたいという気持ちから参加することを決めました。プログラムの中ではポートランドの土地について学んだり、ゲストスピーカーの方からお話をうかがったりしました。特に印象に残っていることは、オレゴン健康科学大学の歯学部で学んでいることとお話をしたことです。自分の言いたいことをなかなか伝えられなかったり、聞き取ることができなかったり、歯がゆさもありましたが、英語を使つての実践的な会話、それによってお互いの大学の違いや良さなどを伝えあつたことはとても刺激的でした。



普段ではできない異なる国の人と話すことで、今まで知らなかったことを学ぶことができ、また英語力を上げたらもっといろいろなことについて話せるのかと思うと英語勉強のモチベーションも上がります。今回プログラムに行つて、今回のプログラムで知つたお店や場所に行けたら良いと思います。

北村 愛理(保健医療学部 理学療法学科1年)

PSUプログラムはスピーキングを中心としたネイティブの先生の日常・医療英語クラスや現地の医療系大学生との交流などが企画されています。私はスピーキング力の向上と海外への憧れを理由に参加し、夏の思い出に残る五日間を過ごすことができました。

私がこの五日間を通して学んだことは、小さなことでも自分の意思をしっかりと持ち、相手に伝えることの大切さです。ネイティブの先生との会話の中では頻りに意見を問われることが多く、言葉のキャッチボールをもとに相手の気持ちを理解していくのだと感じました。自分の複雑な気持ちを相手にすぐに伝えられるのは素直でないとできないことだと思えます。相手の様子を伺い、気持ちを察する日本人の私にとってこの

高橋 里佳(看護専門学校2年)

今回、私がこのプログラムに参加した理由は、二点あります。一つは、英語力を取り戻すためで、もう一つは友達におすすめされたからです。

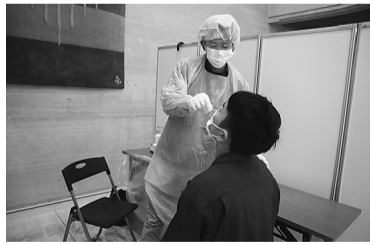
先生方は、拙い英語でも相槌を打ってくれて発言しやすい雰囲気がありました。先生のSDGsも聞き取りやすい単語を用いてくれて理解しやすい授業でした。また、Discussionが多く、オンラインながらも実際にみんなで体験できている感じが味わえたのが良かったです。自分の意見だけでなく相手の意見も聞きつつ、そのうえでまた自分の意見を...という風に繰り返していき、グループの狭いコミュニケーションで活発に発言することで、全体に戻った時あまり緊張したりすることなく発言できていたように思います。今は、コロナの影響で実際に現地

1年生の後期寮生活がスタート

PCR検査実施後、富士吉田キャンパスへ

10月4日、1年生の後期寮生活がスタートした。各学部の1年生は、7月21日から夏季休暇のため一時退寮し、9月1日より自宅でオンライン授業を受けていたが、新型コロナウイルスの感染の広がりが落ち着いたことから、寮生活の再開となった。

入寮に際し、10月1日、3日にかけてPCR検査を順次行い、陰性確認後、バスに乗り込んで富士吉田キャンパスへ向かった。台風16号が関東に接近していたため、強い雨と風の影響があったが、陽性者は1人もおらず、全員が入寮できた。



PCR検査を受ける学生



学生を乗せ富士吉田キャンパスへ

医学堂書店

品川区 旗の台 電話(03) 3783-9774

生協は学園生活のパートナーです



昭和大学生生活協同組合

旗の台 3788-2322(内線)8268 アミ 3785-9729(内線)8369
吉田 0555-23-8505 洗足 3787-4432 横浜 045-985-9624